

告示	番号	31	悪性新生物
	疾病名	軟骨芽細胞腫	

軟骨芽細胞腫

なんこつがさいぼうしゅ

概要・定義

軟骨芽細胞腫（chondroblastoma）は、小児の長管骨骨端部に好発する軟骨形成性の良性骨腫瘍である。組織学的には破骨細胞型多核巨細胞と円形または多角形の軟骨芽細胞様細胞で構成される細胞密度の高い比較的未分化な組織を特徴とし、石灰化巣を伴った軟骨性の間質を伴う腫瘍と定義される。

症状

局所の疼痛や腫脹で発症する。骨端部に発生するため、関節軟骨の破壊を伴う症例では、関節液貯留を認めることもある。

血液検査では特に異常は認めない。

単純 X 線では長管骨骨端部の辺縁硬化を伴う類円形の透亮像として見られ、石灰化は約 25%の症例に認められる。MRI では T1 強調像で低信号、T2 強調像で不均一な高信号を示し、周囲の骨髓や軟部組織の反応性浮腫をしばしば伴うことが特徴である。

治療

手術による治療が原則である。手術は搔爬と人工骨または自家骨の移植が行われることが多い。骨端線閉鎖前の小児の骨端部に好発するため、手術の際は成長軟骨を損傷しないように注意する必要がある。病変が小さく無症状の場合は経過観察とすることもある。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/1_5_38.html